

かいぎろく 会議録

かいぎめいしょう 会議名称	だい き さいわいくくみんかいぎ だい かいせんもんぶかい ちいきりよく く ぶかい 第5期幸区区民会議 第10回専門部会「地域力で暮らしやすいまち部会」
にちじ 日時	へいせい ねん がつ にち もく ごご じ 30 ぶん ごご じ 00 ぶん 平成27年9月24日(木) 午後6時30分～午後8時00分
かいじょう 会場	さいわいくやくしよ かいだい かいぎしつ 幸区役所4階第5会議室
しゅつせきしや 出席者	くみんかいぎいん おんじゆん ●区民会議委員(50音順) いとうよしちいん おのすぐるいん かみやおさむいん さとうれいぞういん なりかわしんいちいん ぶかいちやう 伊藤善通委員、小野偉委員、神谷修委員、佐藤例藏委員、成川慎一委員(部会長)、 ならばやしてるえいん まつしせつこいん ふくぶかいちやう むらたせいこいん 榎林照江委員、松井節子委員(副部会長)、村田清子委員 ●事務局 さいわいくやくしよ すいしんぶきかくか いまむらけんじかちやう よしおくだいすけたんとうかかりちやう すずき 幸区役所まちづくり推進部企画課 今村健二課長、吉岡大輔担当係長、鈴木 さとしたんとうかかりちやう うじいえゆりなしよくいん 智担当係長、氏家侑里奈職員 こうれい しょうがいかこうれいしやしえんがかり おおしるけいこちやうほさ 高齢・障害課高齢者支援係 大城敬子課長補佐 ちいきしんこうかちいきかつどうしえんがかり あおきゆうきしよくいん 地域振興課地域活動支援係 青木優樹職員 (株) けいかくぎじゆつけんきゆうしよ あべ あきら 計画技術研究所 阿部 正
けつせきしや 欠席者	あおきはるひこいん たかはしのぞみいん にしもとまるどにあいん ふじいてるみいん 青木晴彦委員、高橋希委員、西本マルドニア委員、藤井照美委員
ぼうちやうしや 傍聴者	ひとり 1人
はいふしりやう 配布資料	ぎじしだい ●議事次第 しりやう かだいかいけつ む とりくみ かくにん あん ●資料1 課題解決に向けた取組について(案) しりやう だれ もが く らし や す い ま ち の じ つ げ ん む へ じ ゅ う ほう は つ し ん ほう ほう ●資料2 誰もが暮らしやすいまちの実現に向けて～効果的な情報発信方法に ついて～ しりやう ちいきこみゆにてい かつせいか む ●資料3 地域コミュニティの活性化に向けて しりやう ちやうないかい じちかいかつどう かつせいか してん ●資料4 町内会・自治会活動を活性化する視点について しりやう ちいきりよく く らし や す い ま ち ぶ かい ちやうさしんぎすけじゆーる あん ●資料5 「地域力で暮らしやすいまち部会」調査審議スケジュール(案) しりやう だい き さいわいくくみんかいぎ すけじゆーる あん ●資料6 「第5期幸区区民会議」スケジュール(案) ●その他1 ほか だい き さいわいくくみんかいぎだい かいせんもんぶかい ちいきりよく く 第5期幸区区民会議第9回専門部会(地域力で暮らしやすいまち 部会) 摘録 ●その他2 ほか だい き さいわいくくみんかいぎいん さんよめいぼ 第5期幸区区民会議委員・参与名簿
ぎだい 議題	1 かだいかいけつ む とりくみ かくにん 課題解決に向けた取組の確認について 2 だれ もが く らし や す い ま ち の じ つ げ ん む へ じ ゅ う ほう は つ し ん ほう ほう 誰もが暮らしやすいまちの実現に向けて 3 ちいきこみゆにてい かつせいか む 地域コミュニティの活性化に向けて 4 こんご すけじゆーる 今後のスケジュールについて
けつていじこう 決定事項	1 かだいかいけつ む とりくみ かくにん 課題解決に向けた取組の確認について しりやう こんご ちやうさしんぎじこうとう ていげん む けんとう ・資料1にある「今後の調査審議事項等」のとおり、提言のまとめに向けて、検討 していくこととした。

	<p>2 誰もが暮らしやすいまちの実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料2の内容を踏まえて、効果的な情報発信に向けて検討していくこととした。 <p>3 地域コミュニティの活性化に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料3と資料4を基に、次回部会までに事務局で統合案を作成することとした。 各委員が所属する町内会・自治会の強みの活用及び弱みの克服に向けて、活用できる他地区事例の抽出と、実態を踏まえ、有効と思われる取組について、次回までに整理することとした。整理に当たっては、後日、事務局から様式を送付するので、それにまとめて、次回の部会前に提出することとした。 <p>4 提言のとりまとめイメージについて</p> <ul style="list-style-type: none"> 「誰もが暮らしやすいまちの実現」及び「地域コミュニティの活性化」とともに、効果的な情報発信につながる内容（骨子案の作成等）を提案する。
<p>かいぎ ないよう 会議の内容 および おも はつげん 主な発言</p>	<p>1 課題解決に向けた取組の確認について</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料1を基に、事務局より説明した。 「今後の調査審議事項等」のとおり、提言のまとめに向けて、検討していくこととした。 <p>2 誰もが暮らしやすいまちの実現に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 資料2を基に、事務局より説明した。 資料2の内容等を踏まえて、効果的な情報発信方法について、意見交換を行った。 <p>【主な意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本部会で、「幸区ご近所支え愛モデル事業」（以下「モデル事業」という。）について情報発信する場合、区役所が作成する予定のモデル事業事例集と内容が重複するのではないかと。 →モデル事業の事例集として、どのようなものを作成するのは現時点で未定である。今後もモデル事業の進行状況等を確認しながら、検討していく必要がある。（事務局） モデル事業を通じて、近所付き合いがない、又は拒否している人の見守りをどのように行っていくかということがポイントだと思った。町内会・自治会の取組に焦点をあてるのであれば、そういった事例を取り上げることは意味があると思う。事例も含め、どういったものがあれば、地域で活用していけるのか、検討が必要

である。

- ・モデル事業の取組事例を参考にして、本部会の切り口で情報発信して良いのか。
→問題ない。(事務局)
- ・本部会で、地域包括ケアシステムの構築に直結する具体的な取組までは提案できないが、その一助となるようなものを提案できると良い。
- ・地域には、自分たちと地域包括ケアシステムの構築や地域包括支援センターは関係ないと思っている人達も多いのではないかと。地域包括支援センターも町内会・自治会等を通じ、地域と密な関係を築きたいと思っている。その助けとなる情報発信が必要ではないかと。
- ・地域包括ケアシステムという言葉は、私たちは区民会議を通じ、よく聞くようになったが、まだまだ世間では認知度が低い。地域包括ケアシステムが身近なものであるということを私たち地域から広めていくことは効果的ではないかと。
- ・「幸区ご近所支え愛モデル事業」のネーミングは、地域が主役であることが伝わるので良いと思う。「地域包括ケアシステムとは何か」を発信するうえで、前面に押し出すと良いのではないかと。
→地域包括ケアシステムの概念は広く、定義が定まっていないので、分かりにくい部分がある。具体的にどういうことなのか、地域がどういう役割を担っているのかを明確にした方が良い。モデル事業の取組が全てではない。(事務局)
- 本部会で議論していることは、地域包括ケアシステムの構築につながるものだと思う。地域包括ケアシステムという言葉にとらわれない方が良い。本部会としてどう捉えるかが大切。(事務局)
- ・第4期提言を踏まえて作成した「見守り活動ははじめの一步」を更に一步進めたものができると良い。
- ・紹介する取組事例は、取り組む主体からすれば多い方が良い。整理する視点としては、戸建住宅と集合住宅の場合で整理できるのではないかと。
- ・情報を発信する場合、紙媒体であれば全戸配布が理想だが、コストがかかる。一方で既存の広報誌などへの掲載では、掲載内容に限られる。効果的な方法を検討したい。
- ・地域コミュニティの活性化のことも考えると、区民全般に加え、町内会・自治会や地域包括支援センターなどの関係機関にもある程度の部数を配布してほしい。
- ・モデル事業で作成する事例集もあるので、本部会では地域包括ケアシステムは他人事ではないということとを伝え、地域力を底上げするような情報発信ができたらいのではないかと。
- ・モデル事業で作成する事例集はどこに配布するのか。
→各町内会・自治会の役員に配布することを検討している。また、モデル事業を行った町内会・自治会には会員分配布したいと思っている。(事務局)

→製本などすると相当なコストがかかる。また、同じような広報物がいくつもあ
るのはどうかと思うので、モデル事業の状況も見つつ、効果的な情報発信に
つなげていきたい。(事務局)

3 地域コミュニティの活性化に向けて

●資料3、資料4について、事務局より説明した。

●資料3、資料4の内容等を踏まえて、地域コミュニティの活性化に向けた視点
及び活動事例の整理について、意見交換を行った。

【主な意見】

《市内取組事例の紹介について》

・オーベルグランディオ川崎自治会では、会長があまり前に立つのではなく、他の人
にやってもらい、会長は必要な根回しを行うというスタンスで取り組んでいると
聞いている。また、地元の町内会あつての自治会ということで、自治会が地元の
町内会に協力しなければいけないという考え方を持っていて、良好な関係を
築いている。そういった取組事例の紹介を通じて、周辺の町内会・自治会と
協力することが重要であるということが分かってもらえると良いのではない
か。(事務局)

・全町内会連合会合同研修発表資料は本部会で活用して良いのか。

→先進事例のような形で紹介するのであれば、問題ない。(事務局)

・マンションだけの自治会は若い世代が多いが、ノウハウがない。そういう点では
神明町町内会とオーベルグランディオ川崎自治会の実例は参考になる。

・大きなマンションは自治会を作った方が良くと思う。地元の町内会・自治会とす
れば、マンションが加入すれば会費は得られるが、結束力は弱いと思う。神明町
町内会とオーベルグランディオ川崎自治会のような横の連携の方が良いと思う。

・視点や取組事例を紹介する場合、読みやすさの工夫が必要。

《若い世代の町内会・自治会への加入促進について》

・課題認識はあるが、対策がなかなか出てこないのが現状である。

・若い世代の町内会・自治会への参加・加入促進について、効果的な取組事例があ
れば、積極的に紹介したい。今は、資料4の一つとして検討していきたい。

《各委員が所属する町内会・自治会の実態を踏まえた事例活用の可能性について》

・個々の町内会・自治会における強みの活用と弱みの克服につながる効果的な取組に
ついて、次回部会で意見交換するための材料として、現状をそれぞれ整理、検討
してくることを宿題としたい。

→後日、事務局から様式を送付することとする。(事務局)

《その他》

・資料3と資料4は統合できるのではないかと。

→資料3と資料4を基に、次回部会までに事務局で統合案を作成するので、その後、内容について精査していきたい。(事務局)

4 提言のとりまとめイメージについて

●提言のとりまとめイメージについて、意見交換を行った。

【主な意見】

・残りの部会でどこまで整理するかがポイントである。

→第4期の「みんなで見守りたい」は「見守り活動はじめの一歩」の骨子案まで作成し、その後は作成及び発行は行政に委ねられた。(事務局)

・誰もが暮らしやすいまちの実現及び「地域コミュニティの活性化」とともに、効果的な情報発信につながる内容（骨子案の作成等）を提案する方向でいきたい。

5 今後のスケジュールについて

●資料5及び資料6について事務局が説明した。

●第11回専門部会は、平成27年10月29日（木）18：30から（場所：幸区役所4階第4会議室）、第12回専門部会は、平成27年11月30日（月）18：30から（場所：幸区役所4階第4会議室）、第13回専門部会は、平成27年12月18日（金）18：30から（場所：未定）とする。

●第3回「幸区ご近所支え愛モデル事業」推進会議の日程等を連絡した。（日時：平成27年11月9日（月）15：00から。場所：幸区役所4階第4会議室）